

●課題研究全体発表 2月22日

40分授業(1限~6限)

・講堂…全校集会の座席に着席

1、2年生合同

【日程】

14:20	講堂入場完了・開会	
14:25	「普通」発表開始 1班7分×6班	発表時間は入退場を含む
15:10	休憩	
15:15	「国際」発表開始 1班7分×2班	
15:30	質疑応答	
15:40	講評 講師：曾余田浩史先生 広島大学大学院教育学研究科 教授	
	・本日の発表について	・大学での学びとの繋がり
	・これからどのように学んで欲しいか	
16:00	教室へ移動・振り返り	16:10 日程終了(掃除へ)

●第4回考査に向けて **高2の集大成 全力を尽くそう**

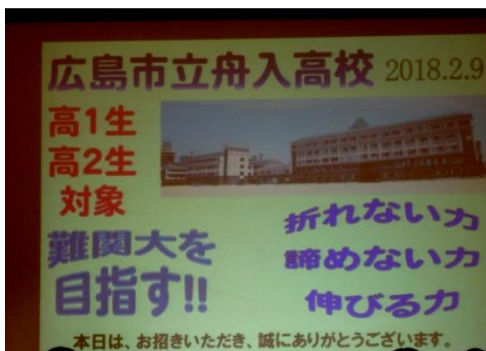
- ・今週末 2月23日(金)より考査週間
 - ・選抜IIをはさみ、試験週間が長くなる。モチベーションを最後まで維持する。後半の科目に油断が生じやすくなるので要注意。
 - ・一通りの復習、1回の復習で満足しない。「反復」する。そのための「計画」を立てる。
 - ・自己記録の更新、満点を目指した取り組みをする。この考査の内容は、そのまま、「入試本番」の基礎になっていく。
 - ・考査を疎かにした人で、入試に成功した人はいない。
 - ・3年生の選択科目でなくなった教科についてもしっかり学習する。「学問」は皆繋がっている。
- 【2年生 学習時間状況】自分のクラスは「切磋琢磨」するクラスか。**
- ・気づいていると思いますが、学習時間の「量」と、「学習成績」はここにきて、非常に相関が高くなっています。
 - ・クラスによる差が開き始めています。「自分のクラスの常識」は、「他のクラスの非常識」であるかもしれません。クラスの雰囲気を決めるのは、1人1人の姿勢です。「受験は団体戦」です。
 - ・行事だけ盛り上がるクラスになっていないか、振り返ってください。「メリハリ」があるのかも。
 - ・学習は「習慣」であり、「蓄積」であるため、一朝一夕には改善されませんが、この考査期間をよいきっかけにして、必要十分な学習の「量」をまず「確保」しましょう。
 - ・理系の半数のクラスは、十分な学習時間が確保されていません。従前にも述べましたが、**理系は、文系+2時間が必要です。**

①1月 8日~1月14日	学年平均 18.3時間 (最高クラス21.5時間)	最低クラス13.7時間
②1月15日~1月21日	学年平均 16.2時間 (最高クラス18.9時間)	最低クラス13.7時間
③1月22日~1月28日	学年平均 18.2時間 (最高クラス21.2時間)	最低クラス15.0時間
④1月29日~2月 4日	学年平均 18.1時間 (最高クラス20.3時間)	最低クラス16.3時間

●2月9日（金）難関大学志望者講演会を振り返って



2年生50名、1年生50名、保護者60名が出席して行われました「難関大」に向けた嘸ことどもらず、広く大学入試一般についてお話いただきました。



【講演会の内容 一部紹介】

- ・3万人に達する「再受験生」…一度大学に入学、5月ごろ大学を辞めて受験しなおそうとする受験生の数が3万人。簡単に大学を辞める生徒が実は多い。所謂「浪人生」ではない。不本意入学、安易な妥協が、大きな回り道になる。「AO」入試などで合格した生徒に多い。
- ・大学は「雰囲気」で決めない。「信念」をもって決める。「信念」をもって決めることは、英単語500個覚えることよりも重要。
- ・成績が伸びない人は、志望があやふやな人が多い。
- ・「仲間」のレベルが、「自分」のレベルを決める。
- ・「就活」就職試験では、「一人暮らし」の有無を聞かれる。「一人暮らし」の経験は貴重。
- ・大学入試問題を解くということは、出題意図を理解し採点者に「お見せする」こと。丁寧に書くことは必須である。つまり、「コミュニケーション力」が問われているということ。
- ・実際の入試問題を比べてみると… 「法政大学」と「東京大学」の英語
同じ英文だが、「東大」の方が、わかりやすい単語で表現されている。これはどういうことか。「東大」は、「単語」では合否を決めないということ。
- ・自己採点のミスが多い。
★自己採点が正確になる＝成績が伸びる。
例：センター試験9割の得点率の人…自己採点ミスなし。
★マークミスは不運ではない。「情けない現実」である。
- ・試験間の休憩時間に何をするか。→ 次の試験科目の準備をする。終わった問題の成否についてワイワイしている受験生にならない。静かに、次の準備にとりかかる。今から、その習慣をつける。そして、センター試験本番では自分はこの時間にこれをやると今から想定しておくことが大切である。
- ・現役合格性の「学力伸長」とはどのような曲線をたどるのか。
3年生の5月ごろA判定が出るような大学を受けない。ほとんどの現役生は、まだD、E判定である。高3の12月から1月に急上昇する。これを信じて頑張る生徒が合格する。